

## 足銀扱い私募債で 防犯標識を寄贈

マスクン

国連の「持続可能な開発目標」(SDGs)に関連し、総合建設業「マスクン」(宇都宮市雀宮町、増澤鉄也会長)は1日、宇都宮南地区防犯協会に発光ダイオード(LED)ライト付きの防犯標識27基を寄贈した。同社が発行し、足利銀行(松下正直頭取)が引き受けた「あしぎんSDGs私募債」で足銀が受け取る

手数料の一部を寄贈品の購入代金に充てた。

足銀は私募債を引き受ける際、手数料の一部で企業の指定先に物品や金銭を寄贈し、SDGsの取り組みを支援している。県信用保証協会(須藤揮一郎会長)も企業を後押しするため、保証料を割り引く寄贈型SDGs特定社債保証「とちぎ地域貢献応援債」の取り扱いを9月から始め、今回が初の事例となった。

宇都宮南署での寄贈式で、増澤会長は「住みよいまちづくりにお力添えできるといい、地域貢献をしたい」とあいさつした。同防犯協会の石嶋勇会長は「ご厚意を無駄にすることなく、しっかりと努めていきたいと覚悟を決めた」と謝意を述べた。標識は年内にも同署管内に設置されるという。



目録を手渡すマスクンの増澤会長(左)と宇都宮南地区防犯協会の石嶋会長(右) 11月1日午後、宇都宮南署